

豊田上郷スマートIC 概要・利用状況

概要

- ・ 運営形態：フルインター形式
- ・ 利用方向：全方向（名古屋・東京方面）
- ・ 運用時間：24時間
- ・ 対応車種：ETC車載器を搭載した全車種

■位置図

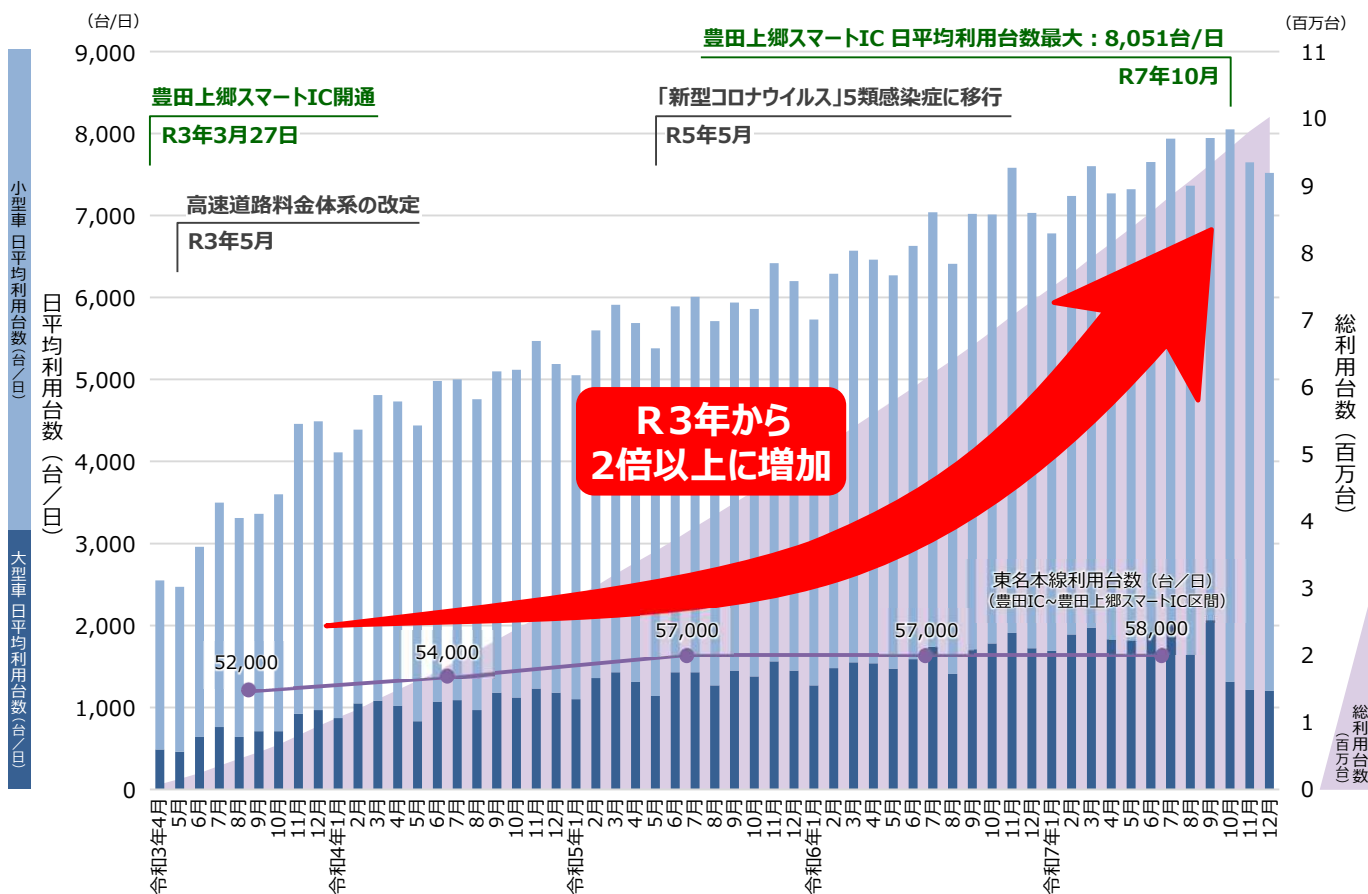


利用状況

- ・ 期間：令和3年3月27日～令和7年12月31日
- ・ 総利用台数：総利用台数は令和7年12月に1,000万台を突破
- ・ 日平均利用台数：7,500台/日（令和7年の平均）

■豊田上郷スマートICの利用台数の推移

R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
R3年平均利用台数 3,400台/日	R4年平均利用台数 4,900台/日	R5年平均利用台数 5,800台/日	R6年平均利用台数 6,700台/日	R7年平均利用台数 7,500台/日



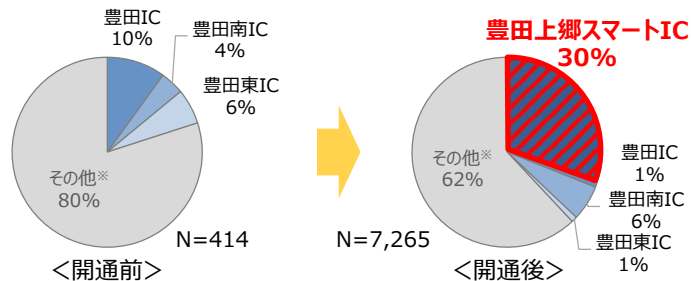
自動車産業の拠点地における経済活動の活性化

輸送経路の転換に伴う時間短縮により、物流コストが約2割削減

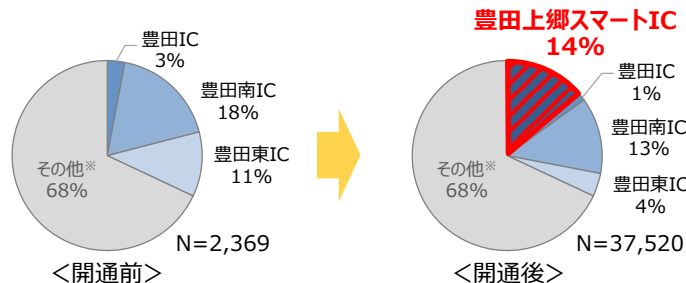
周辺企業のIC利用割合が大きく変化

■ 周辺企業のIC利用割合

<A社>



<B社>



ETC2.0データ（開通前：R1年11月（大型車）、開通後：R6年11月（大型車））
※その他には、その他のICを利用する交通及びICを使用しない交通を含む

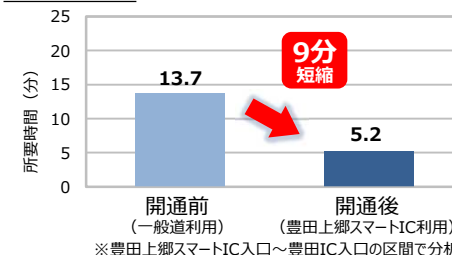
高速道路利用区間の延伸により、上郷地区から名古屋IC方面への所要時間が短縮

■ 上郷地区から名古屋IC方面への輸送経路

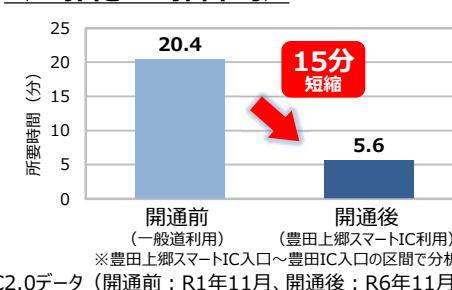


■ 高速道路利用区間の延伸による所要時間の変化

<日平均>



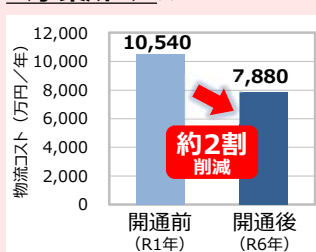
<7時台と17時台平均>



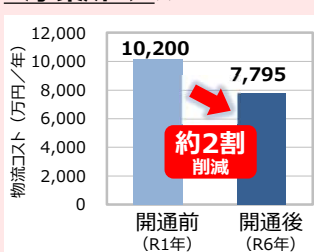
輸送時間短縮による物流効率化で輸送トラック台数が減少し、周辺事業所の物流コストが2割削減

■ 周辺事業所の物流コスト

<事業所1> ※1



<事業所2> ※2

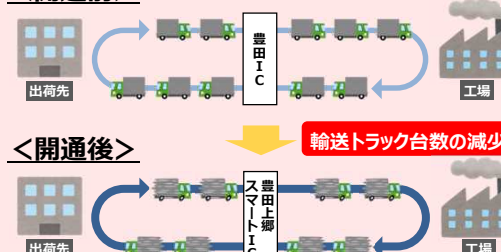


※1: 物流コストは、「費用便益分析マニュアル(国土交通省 道路局 都市局)」に記載の走行時間費用及び走行費用に、高速道路料金を加えた合計値

※2: 物流コストは、企業ヒアリング調査結果から引用

※輸送イメージ

<開通前>



<開通後>



<周辺事業所の声>

・各方面に輸送していますが、一例として片道約50分の輸送時間が豊田上郷スマートICの開通で片道約40分に短縮しました（輸送時間約2割減少）。

・そのため、開通後は少ないトラック台数で輸送でき、人件費も減少したため、物流コストが削減しました。

R7年3月ヒアリング調査結果



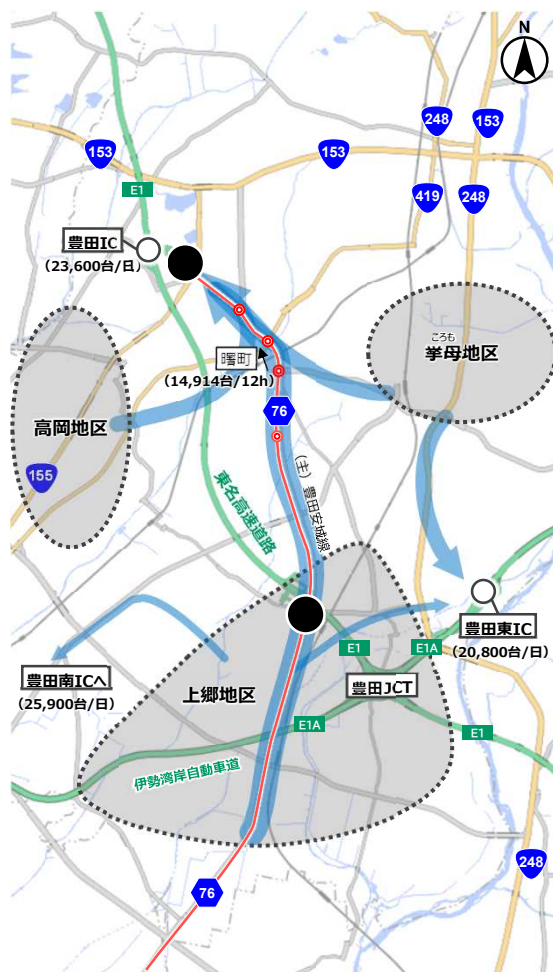
自動車産業の拠点地における経済活動の活性化

高速道路アクセスの交通分散により、E1東名高速道路と並行する主要地方道豊田安城線の車両走行速度が最大で約10km/h向上

周辺地区からの高速道路への交通が分散

■ 高速道路へのアクセス経路

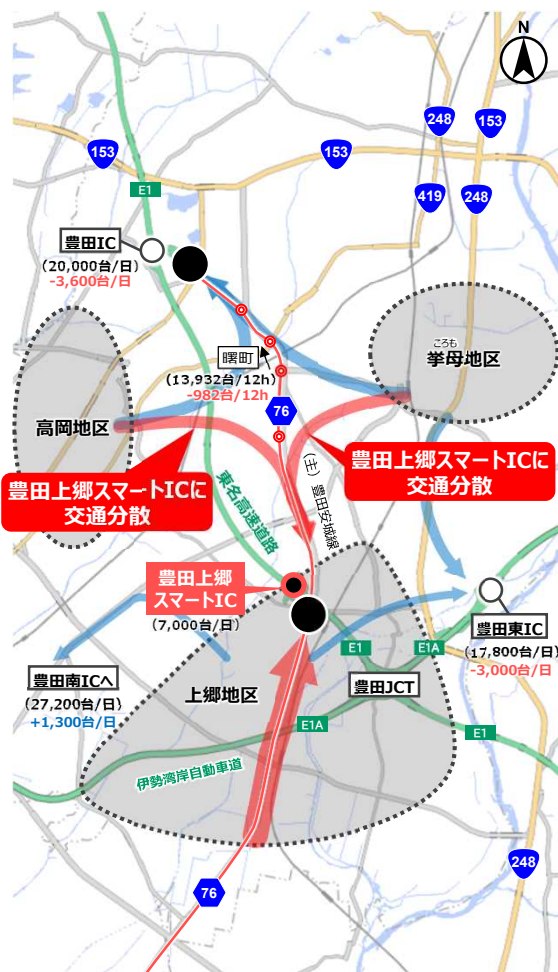
<開通前>



国土地理院地図

日平均IC出入交通量：高速道路統計月報（R1年10月）
曙町交差点交通量：交通量調査結果（R2年10月）

<開通後>

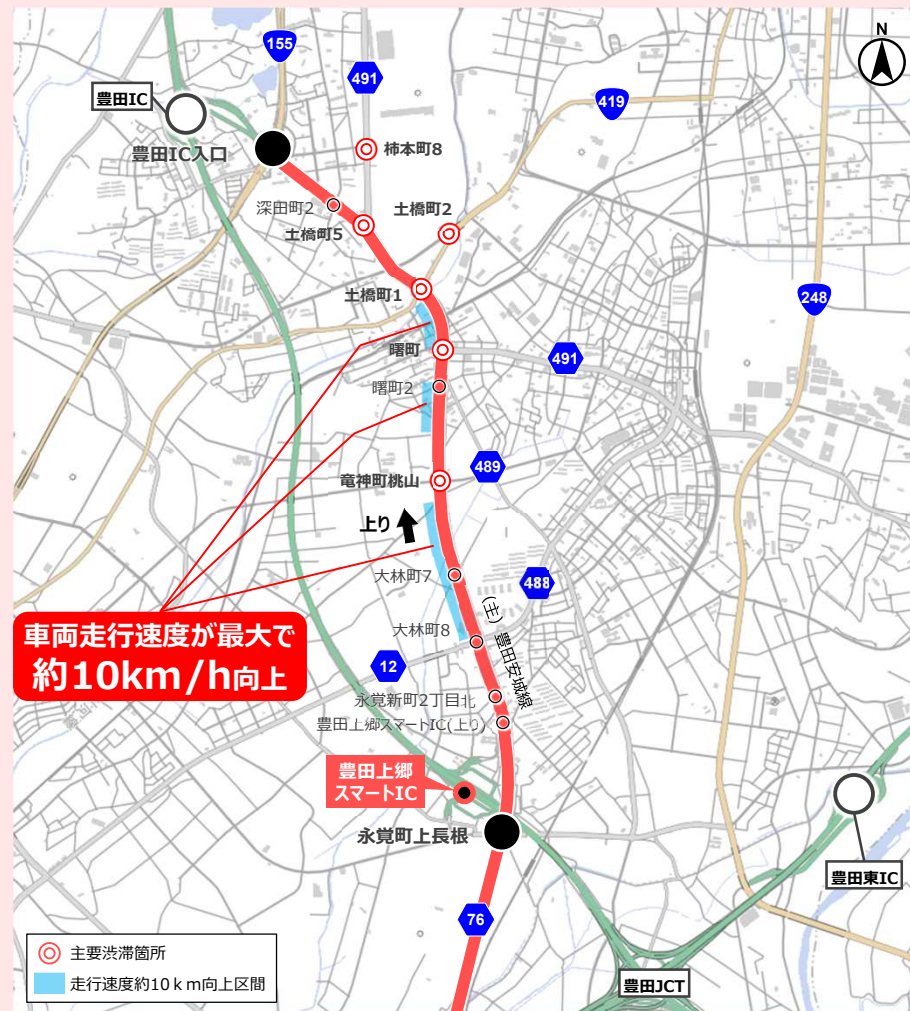


国土地理院地図

日平均IC出入交通量：高速道路統計月報（R6年10月）
曙町交差点交通量：交通量調査結果（R6年10月）

交通分散により、平行する一般道の車両走行速度が向上し、所要時間が短縮

■ 平行する一般道の車両走行速度（上り）



※1：永覚町上長根交差点～豊田IC入口の区間で分析

※2：永覚町上長根交差点～豊田IC入口までの所要時間
ETC2.0データ（開通前：R1年10月、開通後：R6年10月）

国土地理院地図

自動車産業の拠点地における経済活動の活性化

経路に関する選択枝の増加により、輸送ルートが多重化

交通状況に応じた輸送経路の選択枝が増加

■ 豊田上郷スマートIC上りを利用する車両の出発地と経路

<平常時>



ETC2.0データ (R4年9月21日)

国土地理院地図

<事故発生時>

※豊田JCTランプ部（伊勢湾岸自動車道から東名高速
道路へのランプ）で事故発生（R4年9月28日）
東名（東京方面）のランプが通行止め



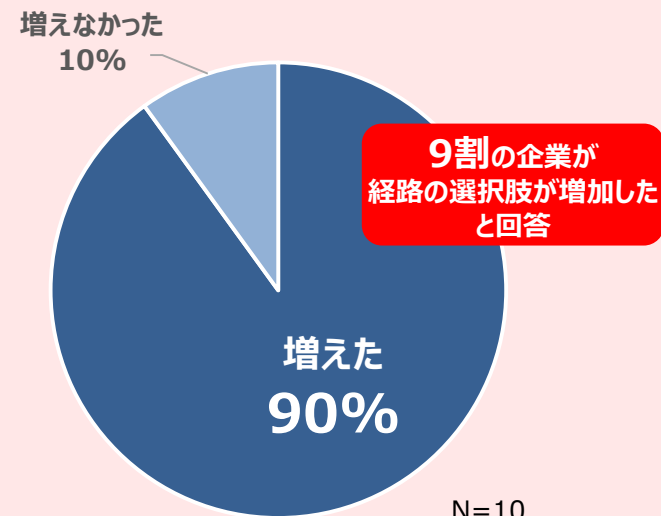
ETC2.0データ (R4年9月28日)

国土地理院地図

9割の企業が混雑時・災害時等で経路の選択枝が増加したと回答

■ 周辺企業ヒアリング結果

Q. 混雑時・災害時等での経路の選択枝は増えましたか？



<周辺企業の声>

- ・豊田上郷スマートICの開通前は豊田南ICを利用し、混雑時の経路の選択枝がありませんでした。
- ・豊田上郷スマートICの開通後は主に豊田上郷スマートICを利用し、交通状況に応じてICを選択しています。



R7年3月ヒアリング調査結果

救急医療体制の充実

愛知医科大学病院（高度救命救急センター）までの救急搬送時間が9分短縮し、死亡リスクが低減

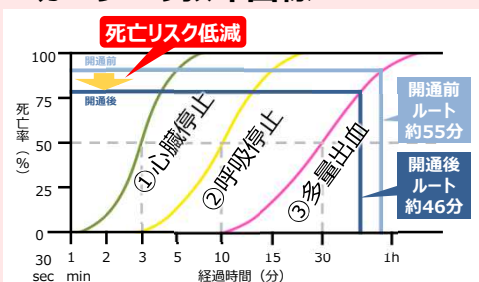
豊田市消防本部南消防署から高度救命救急センターまでの高速利用区間が延長し、救急搬送時間が短縮

■ 病院への搬送経路



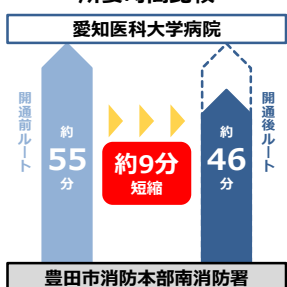
救急搬送時間の短縮により、死亡リスクが低減

■ カーラーの救命曲線



※カーラー救命曲線（M.CARA (1977)「L'acharnement therapeutique」）とは、心臓停止、呼吸停止、多量出血の経過時間と死亡率の目安をグラフ化したもの

〈豊田市消防本部南消防署から愛知医科大学病院までの所要時間比較〉



出典：豊田市消防本部ヒアリング結果

※現場は豊田市消防本部南消防署付近の心肺機能停止の方を病院に搬送する場合を想定

※開通前後のルートの想定速度は、一般道路20km/h、高速道路80km/hで試算

国土地理院地図

<参考> 豊田上郷スマートICを利用した現場への出動は開通後全116回（高速道路上の現場への出動は97回）

■ 高速道路上の現場への出動回数

（● 高速道路上の出動箇所）
（※ ● 内の数字はSA内の出動回数）



出典：豊田市消防本部ヒアリング結果

※集計期間は令和3年3月27日～令和6年12月31日

国土地理院地図

<参考> 豊田上郷スマートICを利用した出動により、高速道路上の現場までの所要時間が短縮

■ 高速道路上の現場へのアクセス経路例

（開通前：西分署から304.5kpまでの経路）
（開通後：末野原分署から304.5kpまでの経路）



出典：豊田市消防本部ヒアリング結果

※開通前後のルートの想定速度は、一般道路20km/h、高速道路80km/hで試算

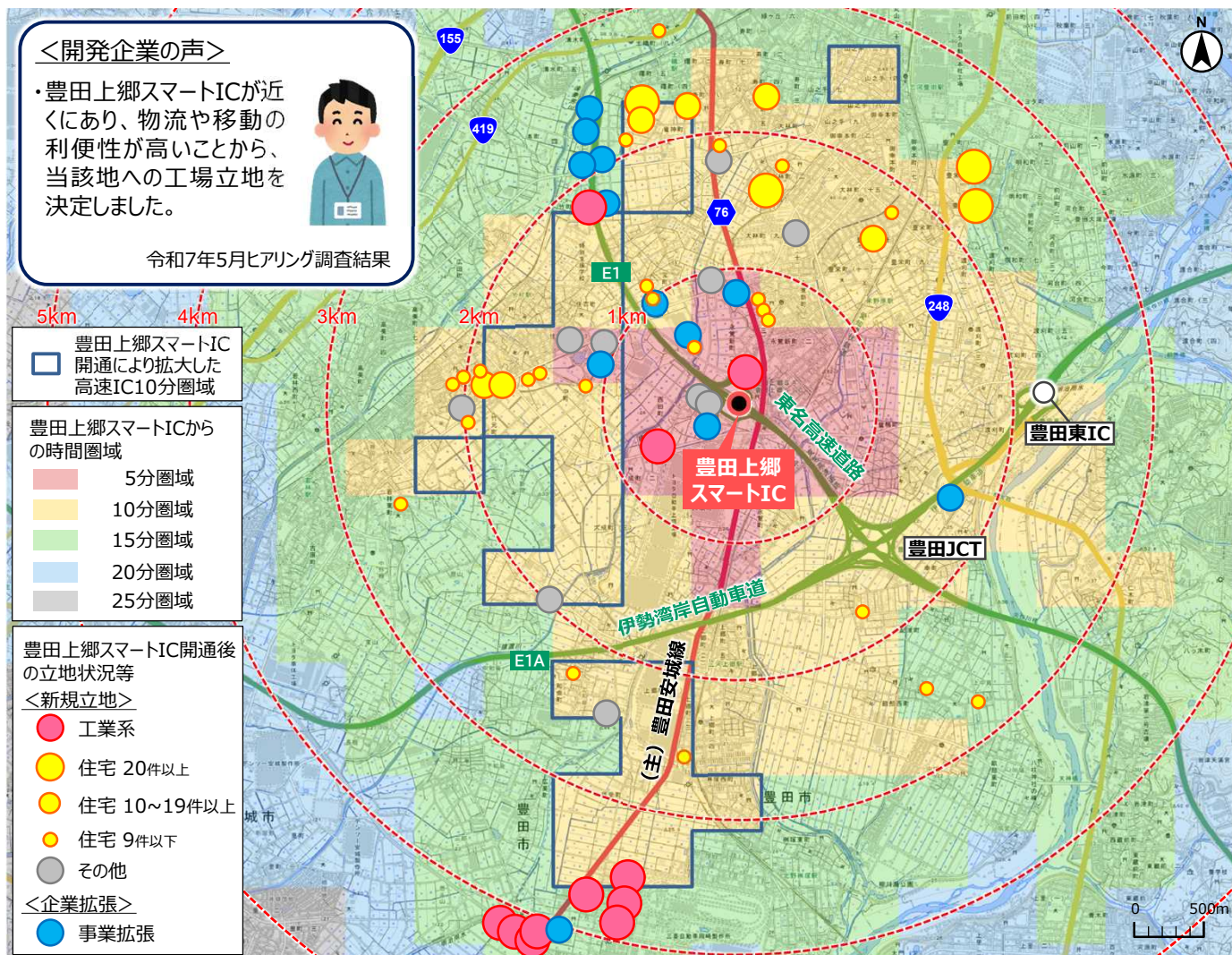
国土地理院地図

豊田上郷スマートIC周辺の土地利用の転換

高速道路とのアクセス性が向上し、スマートIC周辺における土地開発等の活発化に寄与

高速道路とのアクセス性が向上し、スマートIC周辺における工業系・住宅系の土地開発等の活発化に寄与

■ 豊田上郷スマートIC周辺の開発状況



豊田上郷スマートIC開通により拡大した高速IC10分圏域：豊田市幹線道路網整備計画（2025年度～2034年度）より引用

国土地理院地図

豊田上郷スマートICからの時間圏域：ETC2.0データ（R6年6月）の平均速度を使用し、最短時間経路探索により算出（集計メッシュ単位：四次メッシュ（500mメッシュ））

＜工業系開発箇所＞



＜住宅系開発箇所＞



＜その他の開発箇所＞
※福祉施設

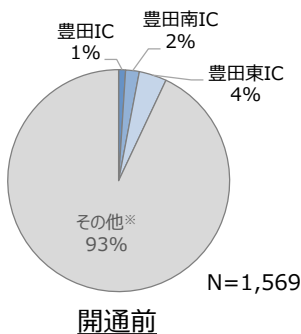


豊田上郷スマートIC周辺施設の集客力向上

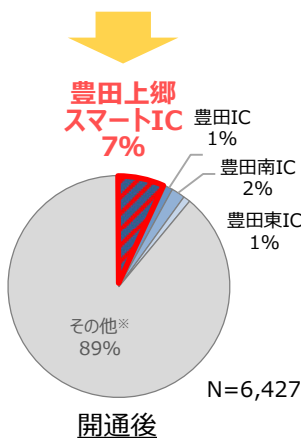
高速道路からのアクセス性が向上し、多目的文化施設（豊田地域文化広場）では利用者の約1割増加に寄与

高速道路からのアクセスが約6分短縮

■豊田地域文化広場 発着交通のIC利用割合



開通前



開通後

■高速道路からのアクセス経路



ETC2.0データ（R6年6月）

国土地理院地図

アクセス性向上により市外からの新規来訪者が増加し、豊田地域文化広場の利用者が1割増加

<管理者・利用者の声>



施設管理者

- ・豊田上郷スマートICの開通後、施設の利用者数が**約1割増加**しました。
- ・豊田上郷スマートICが開通したことでアクセス性が良くなり、**市外からの新規来訪者や協力団体が増加**しました。
- ・開通後、豊田上郷スマートICの近隣施設であることを広報することができ、**高速道路からのアクセス性の良さをアピール**することができるようになりました。

令和7年5月ヒアリング調査結果

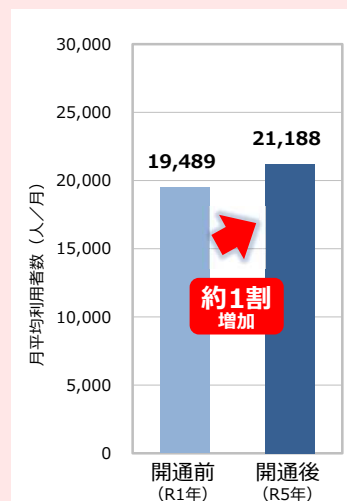


施設利用者

- ・豊田上郷スマートICが開通したことで、**豊田地域文化広場への所要時間が短くなり、来やすくなりました。**

令和7年5月ヒアリング調査結果

■豊田地域文化広場の 月平均利用者数



豊田地域文化広場ヒアリング調査結果

ETC2.0データ（開通前：R1年8月、開通後：R4年8月）

※その他には、その他のICを利用する交通及びICを使用しない交通を含む

